

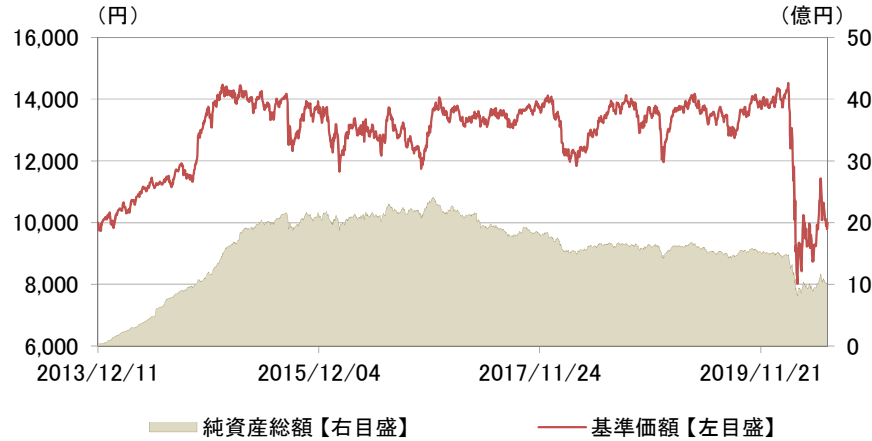
ワールド・リート・オープン(資産成長型)
 〈愛称:ワールド・リートN〉

月次レポート

2020年
 06月30日現在

追加型投信/内外/不動産投信

■基準価額および純資産総額の推移



- ・基準価額は、運用管理費用(信託報酬)控除後の値です。
- ・信託報酬率は、後記の「ファンドの費用」に記載しています。

■基準価額および純資産総額

基準価額(1万口当たり)	9,990円
前月末比	+100円
純資産総額	10.18億円

■分配金実績(1万口当たり、税引前)

決算期	決算日	分配金
第6期	2019/12/10	0円
第5期	2018/12/10	0円
第4期	2017/12/11	0円
第3期	2016/12/12	0円
第2期	2015/12/10	0円
第1期	2014/12/10	0円
設定来累計		0円

- ・運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

■騰落率

ファンド	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
	1.0%	7.2%	-29.0%	-24.6%	-26.1%	-0.1%

- ・実際のファンドでは、課税条件によってお客さまごとの騰落率は異なります。
- ・また、換金時の費用・税金等は考慮していません。
- ・設定来のファンドの騰落率は、10,000を起点として計算しています。
- ・分配金実績がある場合は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

■資産構成

	比率
実質国内REIT	7.9%
実質外国REIT	89.4%
コールローン他	2.6%

■組入国・地域

国・地域	比率
1 アメリカ	65.5%
2 日本	7.9%
3 オーストラリア	6.5%
4 シンガポール	5.0%
5 イギリス	3.8%
6 フランス	3.6%
7 香港	1.7%
8 カナダ	1.2%
9 スペイン	1.1%
10 アイルランド	0.4%
11 オランダ	0.3%
12 ドイツ	0.3%

■当月の基準価額の変動要因(概算)

国・地域	リート要因	為替要因	小計
アメリカ	59円	-6円	53円
カナダ	2円	1円	2円
オーストラリア	-8円	20円	12円
ユーロ	2円	9円	12円
オランダ	-0円	-	-
フランス	3円	-	-
ドイツ	-0円	-	-
アイルランド	1円	-	-
スペイン	-1円	-	-
イギリス	-7円	-0円	-8円
シンガポール	23円	9円	32円
香港	22円	0円	22円
日本	-10円	-	-10円
小計	83円	32円	115円
		信託報酬等	-15円
		当月末基準価額	9,990円

- ・基準価額に与えた影響等をご理解いただくために簡便的に計算した概算値であり、その正確性、完全性を保証するものではありません。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。・原則として、比率は純資産総額に対する割合です。・コールローン他は未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。

※後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

ワールド・リート・オープン(資産成長型)
 〈愛称:ワールド・リートN〉

月次レポート

2020年
 06月30日現在

追加型投信/内外/不動産投信

■用途別組入比率

用途	比率
1 小売り	17.9%
2 オフィス	16.8%
3 住宅	15.3%
4 産業用施設	15.0%
5 複合	9.1%
6 専門特化型	9.0%
7 ヘルスケア	6.2%
8 ホテル	4.1%
9 倉庫	4.1%

■組入上位10銘柄

銘柄	国・地域	用途	比率
1 サイモン・プロパティ・グループ	アメリカ	小売り	6.7%
2 デジタル・リアルティ・トラスト	アメリカ	専門特化型	6.2%
3 プロロジス	アメリカ	産業用施設	4.3%
4 アパロンベイ・コミュニティーズ	アメリカ	住宅	3.9%
5 SLグリーン・リアルティ	アメリカ	オフィス	3.6%
6 エクイティ・レジデンシャル	アメリカ	住宅	3.1%
7 デューク・リアルティ	アメリカ	産業用施設	2.8%
8 パブリック・ストレージ	アメリカ	倉庫	2.8%
9 ホスト・ホテル・アンド・リゾート	アメリカ	ホテル	2.3%
10 カムデン・プロパティ・トラスト	アメリカ	住宅	2.3%

組入銘柄数: 106銘柄

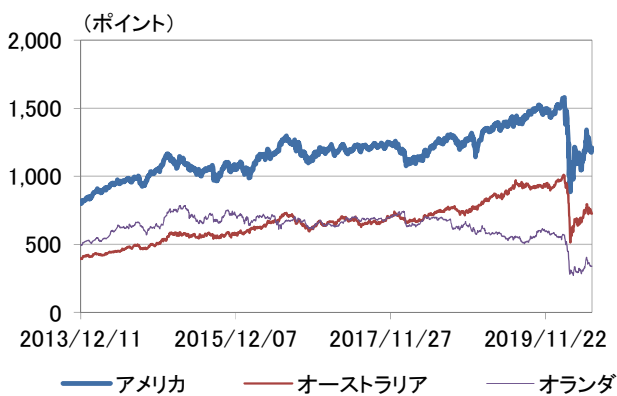
■ファンド平均配当利回り

ファンド平均
5.2%

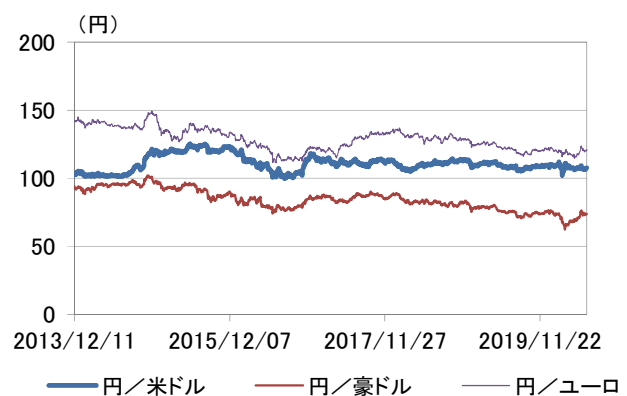
・各銘柄の配当利回りはBloombergのデータを基に算出しています。

・「ファンド平均」は、各銘柄の配当利回りを純資産総額に対する組入比率で加重平均して算出しています。よって当ファンドの将来の分配をお約束するものではありません。

■【参考】主要国のS&P先進国REIT指数(現地通貨建て、配当込み)と為替レートの推移



出所:S&P



出所: 三菱UFJ銀行発表の対顧客電信売相場場の仲値

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。・原則として、比率は純資産総額に対する割合です。

※後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

ワールド・リート・オープン(資産成長型) (愛称:ワールド・リートN)

月次レポート

2020年
06月30日現在

追加型投信/内外/不動産投信

■運用担当者コメント

●市場概況(2020年5月28日～2020年6月29日)

アメリカ市場は上昇しました。月上旬は、米雇用統計の内容や、米連邦準備制度理事会(FRB)が中小企業向け融資制度の条件緩和を発表したことなどが好感され上昇しました。中旬から下旬にかけては、新型コロナウイルスの感染拡大を受けた投資家心理の悪化などを背景に下落したものの、期間を通しては上昇しました。セクター別では、大手リートがショッピング・センターの営業再開を進めると発表したことなどが好感され、小売りのリート銘柄が上昇しました。

アジア・オセアニア地域はまちまちとなりました。日本は概ね横ばいとなったものの、香港は大手リートの決算発表などが好感され上昇しました。そのほか、シンガポールは上昇した一方、オーストラリアは下落しました。

欧州市場は概ね横ばいとなりました。フランスは、月上旬は欧州圏域の景気正常化期待などを背景に、投資家心理が回復し上昇しました。その後は、景気回復への不透明感などが嫌気され下落し、期間を通しては概ね横ばいの動きとなりました。

●運用状況

当ファンドは、不動産への直接投資と比較して(純資産価値対比)割安と判断される銘柄への投資を継続しました。また、配当利回りの高い銘柄を精査し、配当性向や負債依存度、業績動向などを考慮のうえ、割安度合いの修正による価格上昇への確信度に応じて、各国・地域や各不動産の用途に対する投資配分や組入銘柄の投資比率を変更しました。

当該期間において、国・地域別では、オーストラリアなどの投資比率を引き上げた一方、日本などの投資比率を引き下げました。また、不動産の用途別では、小売りやオフィスなどの投資比率を引き上げた一方、住宅やホテルなどの投資比率を引き下げました。ポートフォリオの個別銘柄では、米ニューヨークで優良なオフィス不動産を手掛ける「SLグリーン・リアルティ」(オフィス/アメリカ)の投資比率を引き上げた一方、世界最大級のホテル・リートである「ホスト・ホテル・アンド・リゾート」(ホテル/アメリカ)の投資比率を引き下げました。

当月は、保有するアメリカのリート銘柄が上昇したことや、為替市場で豪ドルが対円で上昇したことなどがプラスに寄与し、基準価額は上昇しました。保有銘柄では、6月下旬にショッピング・センターの営業再開を進めると発表した「サイモン・プロパティー・グループ」(小売り/アメリカ)の保有などが基準価額にプラス寄与しました。一方で、大手のデータ・センター・リートである「デジタル・リアルティ・トラスト」(専門特化型/アメリカ)の保有などがマイナスに作用しました。

●投資環境見通しと今後の運用方針

世界経済や実物不動産市場への先行き不透明感が漂う一方、先進国リート市場は、2020年2月中旬から3月の調整局面を受けて投資妙味が高まっており、6月上旬にはリートの割安感に着目した資金流入の拡大がみられました。直近に発表された米リートの決算では、ホテルや小売り(モール)は、一時的な収益の低下を余儀なくされた一方、倉庫や住宅などは相対的に堅調な結果となりました。賃料収入の不透明感が強まる中、一部のリートは不要不急の設備投資の中断、配当の削減(減配)や停止、人員削減や一時帰休を実施しています。一方で、2008年の金融危機時と比較すると、足下におけるリートの財務健全性は高く、バランスシートの改善を企図した増資や物件売却が限定的な点は明るい材料です。また、短期的には大型の不動産取引や合併・買収(M&A)による非上場化などは低調に留まるとみている一方、私募不動産ファンドには記録的な水準の資金が集まっており、当該資金がコロナ・ショックの収束後に上場不動産・リートを買収する動きを喚起し、実物不動産市場やリート市場へのサポート材料になると考えています。

小売りのリートに関しては、オンライン市場の拡大や新型コロナウイルスの影響を受けた事業環境への不透明感が漂っており、米モール・リート銘柄の投資口価格は解散価値を大きく下回る水準で取引されています。一方で、ポートフォリオでは保有不動産のクオリティーが高く、仮に店舗閉鎖、或いは稼働率の低迷が長期化しても耐えられるリート銘柄を選別しており、経済活動の正常化に伴う投資家心理の回復が進めば、こうした投資妙味がある銘柄への買い戻しが高まるとみえています。そのほか、ポートフォリオでは、同様に不動産の資産価値対比で割安感があるオフィス(米ニューヨーク中心)や、アメリカの住宅などに投資妙味があるとみえています。

当ファンドの運用については、マクロ環境や実物不動産市況の変化、リート各社の経営内容などに着目しつつ、不動産への直接投資と比較して(純資産価値対比)割安と判断される銘柄への投資を継続していきます。また、配当利回りの高い銘柄を精査し、配当性向や負債依存度、業績動向などを考慮のうえ、割安度合いの修正による価格上昇への確信度に応じて、銘柄への投資比率を変更していきます。

・モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・グループの資料に基づき作成しています。・市況の変動等により方針通りの運用が行われない場合があります。

■本資料で使用している指数について

・S&P先進国REIT指数とは、S&Pダウ・ジョーンズ・インデックスLLCが公表している指数で、先進国の不動産投資信託(REIT)および同様の制度に基づく銘柄を対象に浮動株修正時価総額に基づいて算出されています。同指数はS&Pダウ・ジョーンズ・インデックス(S&P DJI)の商品であり、これを利用するライセンスが三菱UFJ国際投信株式会社に付与されています。S&P DJIは、同指数の誤り、欠落、または中断に対して一切の責任を負いません。

ワールド・リート・オープン(資産成長型)

〈愛称:ワールド・リートN〉

追加型投信/内外/不動産投信

ファンドの目的・特色

■ファンドの目的

安定した収益の確保とともに信託財産の十分な成長をはかることを目的として運用を行います。

■ファンドの特色

特色1 世界各国の上場不動産投資信託(リート)に分散投資します。

- ・世界各国の様々な業種のリートに分散投資することで、リート自体が持つ分散効果が更に拡大され、特定の国、特定の業種の景気変動の影響を受けるリスク等を分散・軽減する効果が期待されます。
- ・リートの組入比率は、原則として高位を保ちます。
- ・原則として、為替ヘッジは行いません。

特色2 MSIMグループ(モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・グループ)の運用ノウハウを活用します。

・運用体制は以下の通りです。

●MSIMグループのグローバル・リート運用体制



【MSIM(ロンドン)】モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・リミテッドにマザーファンドの欧州地域の運用指図に関する権限を委託します。

【MSIM(米国)】モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・インクにマザーファンドの資金配分および北米地域の運用指図に関する権限を委託します。

【MSIM(シンガポール)】モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・カンパニーにマザーファンドのアジア・オセアニア地域(日本を含みます。)の運用指図に関する権限を委託します。

・ポートフォリオの構築は、トップダウンで国や地域、セクター配分等を決定し、ボトムアップで個別銘柄を選定するという、2つのアプローチ(運用手法)の融合によって行います。

【トップダウン(・アプローチ)】運用方針の決定プロセスの一つです。まずマクロ分析により、景気、金利、為替といった経済全体に関わる要因を予測し、国別配分を決定し、次に株式、債券、為替などの資産別配分を決定し、具体的な組入れ銘柄を決定していく方法です。

【ボトムアップ(・アプローチ)】投資対象となる個別企業の調査、分析に裏付けられた投資判断をもとに銘柄選定を行い、その積み上げによりポートフォリオを構築していく方法です。

・相対的に割安で好配当が期待される銘柄に投資し、安定した配当利回りの確保と、値上がり益の獲得を目指します。

【配当利回り】リートの価格に対する年間配当金の割合を示す指標であり、リートの価格水準の判断材料の一つとなります。

特色3 信託財産の十分な成長に資することに配慮し、収益の分配を行わないことがあります。

・毎年12月10日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、収益分配方針に基づいて分配を行います。

収益分配方針

・分配対象額の範囲は、経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。

・委託会社が基準価額水準・市況動向等を勘案して、利子・配当収入の中から分配金額を決定しますが、信託財産の十分な成長に資することに配慮して分配を行わないことがあります。

将来の収益分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

また、委託会社の判断により、分配を行わない場合もあります。

■ファンドのしくみ

・ファミリーファンド方式により運用を行います。

<当ファンドが主要投資対象とするマザーファンド>

ワールド・リート・オープン マザーファンド

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

ワールド・リート・オープン(資産成長型)

〈愛称:ワールド・リートN〉

追加型投信/内外/不動産投信

投資リスク

■基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。

したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

価格変動 リスク	リートの価格は当該リートが組入れている不動産等の価値や賃料等に加え、様々な市場環境等の影響を受けます。リートの価格が上昇すれば当ファンドの基準価額の上昇要因となり、リートの価格が下落すれば当ファンドの基準価額の下落要因となります。
為替変動 リスク	当ファンドは、主に米ドル建、豪ドル建およびユーロ建等の有価証券に投資しています(ただし、これらに限定されるものではありません。)。投資している有価証券の発行通貨が円に対して強く(円安に)なれば当ファンドの基準価額の上昇要因となり、弱く(円高に)なれば当ファンドの基準価額の下落要因となります。
金利変動 リスク	金利上昇時にはリートの配当利回りの相対的な魅力が弱まるため、リートの価格が下落して当ファンドの基準価額の下落要因となることがあります。また、リートが資金調達を行う場合、金利上昇時には借入金負担が大きくなるため、リートの価格や配当率が下落し、当ファンドの基準価額の下落要因となることがあります。
信用 リスク	リートの倒産、財務状況または信用状況の悪化等の影響により、リートの価格が下落すれば、当ファンドの基準価額の下落要因となります。
流動性 リスク	有価証券等を売却あるいは購入しようとする際に、買い需要がなく売却不可能、あるいは売り供給がなく購入不可能等となるリスクのことをいいます。例えば、市況動向や有価証券等の流通量等の状況、あるいは当ファンドの解約金額の規模によっては、組入有価証券等を市場実勢より低い価格で売却しなければならないケースが考えられ、この場合には当ファンドの基準価額の下落要因となります。一般的に、リートは市場規模や取引量が小さく、投資環境によっては機動的な売買が行えないことがあります。

上記は主なリスクであり、これらに限定されるものではありません。

■その他の留意点

- 投資信託(ファンド)の分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。なお、分配金の有無や金額は確定したものではありません。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間における当ファンドの収益率を示すものではありません。
- 受益者の個別元本によっては、分配金の一部ないしすべてが、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。
- 当ファンドのお取引に関しては、クーリングオフ(金融商品取引法第37条の6の規定)の適用はありません。

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

ワールド・リート・オープン(資産成長型) (愛称:ワールド・リートN)

追加型投信/内外/不動産投信

手続・手数料等

■お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位/販売会社にご確認ください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額 ※基準価額は1万口当たりで表示されます。基準価額は委託会社の照会先でご確認ください。
換金単位	販売会社が定める単位/販売会社にご確認ください。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目から販売会社においてお支払いします。
申込不可日	次のいずれかに該当する日には、購入・換金はできません。 ・ニューヨークの銀行、ニューヨーク証券取引所、オーストラリア証券取引所の休業日 ※具体的な日付については、委託会社のホームページ(「ファンド関連情報」内の「お申込み不可日一覧」)をご覧ください。
申込締切時間	原則として、午後3時までに販売会社が受付けたものを当日の申込分とします。
換金制限	当ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金のお申込みに制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。また、信託金の限度額に達しない場合でも、ファンドの運用規模・運用効率等を勘案し、市況動向や資金流入の動向等に応じて、購入のお申込みの受付を中止することがあります。
信託期間	無期限(2013年12月11日設定)
繰上償還	当ファンドの受益権の総口数が、当初設定時の10分の1または30億口を下回るようになった場合等には、信託期間を繰上げて償還となることがあります。
決算日	毎年12月10日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年1回の決算時に分配を行います。 販売会社との契約によっては、収益分配金の再投資が可能です。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。個人受益者については、収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。NISA(少額投資非課税制度)およびジュニアNISA(未成年者少額投資非課税制度)の適用対象です。税法が改正された場合等には、変更となることがあります。くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

■ファンドの費用

お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料	購入価額に対して、 上限2.75%(税抜2.50%) (販売会社が定めます) (購入される販売会社により異なります。くわしくは、販売会社にご確認ください。)
信託財産留保額	ありません。

お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬)	日々の純資産総額に対して、 年率1.705%(税抜 年率1.550%) をかけた額
その他の費用・手数料	監査法人に支払われる当ファンドの監査費用・有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料・有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用・その他信託事務の処理にかかる諸費用等についても当ファンドが負担します。 ※上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。

※運用管理費用(信託報酬)および監査費用は、日々計上され、当ファンドの基準価額に反映されます。毎計算期間の最初の6か月終了時、毎決算時または償還時に当ファンドから支払われます。

※実質的な主要投資対象である不動産投資信託には運用等にかかる費用が発生しますが、投資する不動産投資信託は固定されていない等により、あらかじめ金額および上限等を記載することはできません。

※上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。なお、当ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。

本資料のご利用にあたっての注意事項等

●本資料は、三菱UFJ国際投信が作成した資料です。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。●本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。●本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。●本資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。●投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

●委託会社(ファンドの運用の指図等)

三菱UFJ国際投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号

加入協会:一般社団法人 投資信託協会

一般社団法人 日本投資顧問業協会

<ホームページアドレス> <https://www.am.mufg.jp/>

<お客さま専用フリーダイヤル> 0120-151034

(受付時間 営業日の9:00~17:00)

●受託会社(ファンドの財産の保管・管理等)

三菱UFJ信託銀行株式会社

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

販売会社情報一覧表

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は下記の販売会社まで

ファンド名称: ワールド・リート・オープン(資産成長型)

商号	登録番号等		日本証券業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
株式会社愛知銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第12号	○			
auカブコム証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第61号	○		○	
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
株式会社京葉銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第56号	○			
株式会社西京銀行	登録金融機関	中国財務局長(登金)第7号	○			
株式会社静岡銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第5号	○		○	
株式会社清水銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第6号	○			
株式会社荘内銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第6号	○			
スターツ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第99号	○			
ソニー銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第578号	○		○	○
株式会社第三銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第16号	○			
株式会社但馬銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第14号	○			
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第140号	○		○	○
西日本シティ銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(金商)第75号	○			
株式会社東日本銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第52号	○			
株式会社百五銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第10号	○		○	
百五証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第134号	○			
フィデリティ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第152号	○			
株式会社北都銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第10号	○			
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第164号	○		○	
松阪証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第19号	○	○		
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	
丸八証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第20号	○			
三菱UFJ信託銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第33号	○	○	○	
株式会社宮崎太陽銀行	登録金融機関	九州財務局長(登金)第10号	○			
山和証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第190号	○			
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○